

低温に対する農作物被害防止対策

令和5（2023）年1月19日
安足農業振興事務所

気象庁1月19日5時発表の天気予報によると、24日頃から最低気温が低下すると予想されています。さらに25日は県南の最低気温が -6°C の予想となっており、それ以下に下がる可能性があります。

事前の対策をお願いします。

I 事前対策

1 情報収集

- (1) テレビやラジオ、気象庁ホームページ、とちぎ農業防災メールなど、幅広く情報収集を行なう。

・気象庁HP

https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=offices&area_code=090000

・とちぎ農業防災メール

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/kisyousaigai/26nougoubousaimail.html>

2 暖房機等の準備

- (1) 燃料の残量を確認する。
- (2) 暖房機の保守点検を行い、正常作動を確認する。
- (3) 温度センサーを点検する。
- (4) 送風ダクトを配置し、循環扇を利用する。

II 低温時の対策

1 ハウス

- (1) ハウス各部の損傷や緩み等を点検し、気密性を高める。
- (2) 制御装置の設定と正常作動を確認する。
- (3) 作物が生育中の場合は、保温対策としてビニル、保温マット等でトンネル被覆をするか、べたがけ資材を被覆し、保温に努める。
- (4) ハウスサイドやカーテン裾を隙間無く確実に閉める。

2 耕種

(1) 麦

ア 耐寒性を強化するため、2.5葉期を過ぎても麦踏みを1度もしていないほ場では、土壌が乾燥していることを確認後、麦踏みを行う。

3 野菜

(1) いちご

ア ハウスは夕方早めに閉め、ハウス内の保温に努める。

イ ウォーターカーテンハウスや暖房機は、夕方の稼働開始時間を早め、また、朝の稼働終了時間を延長し、温度の確保及び凍結防止に努める。

ウ ハウスのサイドビニルが凍結している場合は、換気時に無理な力がかかり、モーターやビニルの破損につながる可能性があるため、早急に氷凍結部分を除去してから換気を行う。

エ 循環扇が導入されているハウスは、積極的に稼働させ空気の流れを作る。

オ 하우스内が多湿になると灰色かび病、菌核病が発生しやすくなるため、適宜古葉を摘除するとともに、病害予防のため殺菌剤を散布する。

(2) トマト

- ア 地温の低下を最小限にとどめるよう、暖房機を積極的に稼働し地温の上昇に努める。
- イ 循環扇が導入されているハウスでは、温度差の解消や病害発生予防のため、積極的に稼働させる。
- ウ 하우스内が多湿になると灰色かび病、疫病等が発生しやすくなるので、損傷した茎葉を摘除するとともに、病害予防のため天候の回復を待って、登録農薬を散布する。

(3) にら

- ア 地温の低下を最小限にとどめるよう、1週間程度はやや高温管理とする。
- イ 白斑葉枯病、株腐細菌病等の予防のため、登録農薬を散布する。

(4) きゅうり

- ア 低温障害の程度が軽微な場合は、被害部分を切り取り草勢の回復を図る。

(5) アスパラガス

- ア 低温障害を受けて植物体が傷んだ場合は、速やかに切り取る。

4 果樹

- (1) 苗木や幼木は、主幹部に稲わらを厚く巻きつけるなど、防寒対策を徹底する。
- (2) 強い冷え込み後は、芽枯れや紫変色枝枯症等の発生が懸念されるため、枝の状態を確認しながら剪定作業を進める。
- (3) 根圏制御栽培は、かん水設備等の水抜きを再確認し、凍結による機材の損傷を防止する。

5 花き

(1) ばら

- ア 低温障害を受けた花は速やかに切り取り、樹勢の回復を図る。
- イ 循環扇が導入されているハウスは、積極的に稼働させ空気の流れを作る。
- ウ 樹勢が回復するまで、給液量や肥料濃度は抑え目にする。

(2) トルコギキョウ

- ア カーテンの開閉時間を調整し、ハウス内の保温に努める。
- イ 地温の低下を最小限にとどめるよう、暖房機を積極的に稼働させる。
- ウ 하우스内が多湿になると、灰色カビ病が発生しやすくなるため、損傷した茎葉や老化花を摘除するとともに、病害予防のため天候の回復を待って薬剤散布を行う。

6 畜産

(1) 牛

- ア 水道管に保温材を巻き凍結を防止し、ウォーターカップ内の氷を速やかに除去するなど、牛が常に飲水出来るようにする。
- イ 牛体に直接寒風が当たらないよう、ビニールシートやコンパネで牛舎の北側や北西からのすきま風を防ぐ（ただし牛舎が密閉状態にならないよう注意する）。
- ウ 牛体がぬれると体温が奪われるため、敷料は厚く敷き、乾燥状態を保ち、牛の腹が冷えないようにする。
- エ 特に子牛は寒さに弱いので、ネックウォーマーやカーフジャケットを着せたり、ヒーターなどの暖房器具を活用する。

(注意)

※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。

※ 農薬散布に当たっては、飛散防止に十分注意する。